

市町村名	南風原町						
平成24年度（繰越）沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2－③	観光による地域産業活性化事業（x i 町独自の商品開発・技術力強化）			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－（6）－ア	
担当部署名	経済建設部 産業振興課		事業実施（予定）年度	平成24～26年度		沖縄振興基本方針該当箇所	
						III-1-(1)	
事業内容	地域資源の活用や異業種連携による商品開発及び企業と連携により消費者のニーズを踏まえたデザイン性・機能性に優れた南風原らしい、商品開発等を行い、産業展開する。H24年度はターゲットを2点に絞り、H25年度は実際に商品をつくり、販路を拡大する。						
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他（ ）						
予算額・執行額【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）	予算の状況		24年度	25年度	26年度	27年度	
		(a)当初予算額	5,477				
		(b)予算現額	5,477				
		(c)増減額(b-a)	0				
		(d)前年度繰越額	－				
		A. 計(b+d)	5,477				
		B. 執行済額	3,971				
		うち交付金充当額	3,176				
		次年度繰越額	0				
		執行率（％）(B/A)	72.5%				
予算の状況の説明	当初予算額と執行済額に差額が生じているが、委託費の額確定による精算によるものであり、計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。						
活動目標（指標）及び達成状況	H24活動目標（指標）		達成状況				
			24年度	25年度 (2-7)	26年度 (2-7)	27年度	
	試作品製作	目 標	(2品)	()	()	()	
		実 績	2品				
		目 標	()	()	()	()	
		実 績					
達成状況説明	異業種のノウハウを集め、優れた商品開発を行うために「特産品開発チーム（プロジェクトチーム）」を発足。試作品開発を行うターゲットを2つ（美瓜・スターフルーツ）に決定。 県内外の商品開発に取り組んでいる事業所などを視察。南風原だけでなく、多くの場所や商品を見ることで知識を高め、情報を収集し、商品開発を行ううえで必要な発想力を養う。 同じメンバーでの会議や議論だけでなく、外部の専門家を招き勉強会を開催することで、商品開発・ものづくり・販路への考え方などを学び、商品化への新たな課題などを学ぶ。						
成果目標（指標）及び進捗状況	H24成果目標（指標）		基準値 (年度)	24年度	25年度 (2-7)	26年度 (2-7)	目標値 (27年度)
	試作品製作	目 標	()	(2品)	(ー)	(ー)	(ー)
		実 績		2品	ー	ー	
	【参考指標】 開発品のうち実際に商品化された商品の販売数 ゆめかなえぼしマドレーヌ（H25開発）	目 標	()	()	()	(1,000個)	(1,700個)
		実 績				1,641個	5,100個
	【参考指標】 開発品のうち実際に商品化された商品の販売数 美瓜カレー（H26開発）	目 標	()	()	()	(100食)	(350食)
		実 績				180食	521食
	進捗状況説明	・平成24年度はプロジェクトチームで決定した2つのターゲット（スターフルーツ、へちま（美瓜））を使い、実際に試作品を作成した。スターフルーツでは、ジャムや酢漬け（ピクルス）、スムージーの試作品を制作、へちま（美瓜）では、ソースやジャム、佃煮、スムージーの試作品を制作し、素材の持ち味を生かしたさまざまな商品開発を模索した。 ・平成25年度には、前年度に模索した試作品の中からへちま（美瓜）は佃煮をピックアップ、スターフルーツはこれまでの試作品を生かした商品の開発が難しいとプロジェクトチームで判断し、視点を変え新たにコンフィ（砂糖煮）を制作し商品化に向けた取り組みを行った。 ・へちま（美瓜）佃煮では、佃煮を使ったパンの試作を行った。南風原町物産展でテスト販売し、売れ行きはよかったが、その後の製造を希望する事業者がなく、現時点で商品化には至ることができなかった。 ・スターフルーツのコンフィ（砂糖煮）では、マドレーヌの試作を行った。コンフィを使用したマドレーヌは平成26年度には「ゆめかなえぼしマドレーヌ」として商品化され、現在町内事業所1店舗で販売している。平成25年度に商品化に向けた取り組みのため、販売実績はないが、平成26年度からは町内事業所1ヶ所で店頭販売され販売目標を達成できている。販売にあたっては、町内の小中学校生からマドレーヌの名称とパッケージデザインの募集を行った。 ・平成26年度は新たにへちま（美瓜）を使った「美瓜カレー」を開発し、町内事業所1ヶ所で販売を行った。 ・平成27年度にゆめかなえぼしマドレーヌの味のブラッシュアップを図り、味わいがまろやかになった。また美瓜カレーは美瓜ピクルス入りラー油をトッピングすることで、味に変化をつけ、大人も楽しめるメニューとなった。 ・商品のブラッシュアップや認知度の向上を図ったこともあってか、販売数を前年より大幅に伸ばすことができた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・「ゆめかなえぼしマドレーヌ」「美瓜カレー」はそれぞれ、町内事業所1ヶ所での販売となっているため、販路先の開拓が必要。 ・平成25年度に試作をおこなったへちま(美瓜)佃煮を使用したパンの売上げは好調であったが、現在製造を希望する事業所がないため、製造業者の開拓が必要。 ・原料であるスターフルーツとへちま(美瓜)自体の認知度が低いいため、原料自体の周知、普及が必要。 ・農産物は時期や天候に収穫量が左右されるため、収穫量が少なくなる時期の対応が必要。 ・開発した商品の販路拡大をおこなうため、商品の知名度を向上させる取組、手法の検討が必要。 ・ゆめかなえぼしマドレーヌ、美瓜カレーの販売数は順調に伸びているが、今後は関連する商品(「南風原町産スターフルーツ」を活用した商品、「はえばる美瓜」を活用した商品)を増やしていくことが課題となる。	・「ゆめかなえぼしマドレーヌ」「美瓜カレー」の販路を開拓するために、販売店や町商工会、観光協会等と連携して商品のPRに取組んでいく。 ・へちま(美瓜)の佃煮を使用した商品をパンのみならず、ほかにも開発できないか、商品としての可能性の掘り下げと、開発に協力できる事業所の開拓を進めていく。 ・特産品開発の幅を広げるため、食材の加工方法についての研究に取り組む。 ・開発した商品を今後さらに普及させていくために、原料となる特産品の周知・普及活動を行う。 ・収穫量が少ない時期の対応に関しては、プロジェクトチーム単独で取り組むのではなく、関係機関との連携を図る。 ・町特産品を県内外へPRするため、積極的にイベントへ出店したり、SNSやインターネット等をこれまで以上に活用し、広報宣伝活動をおこなう。 ・ゆめかなえぼしマドレーヌ、美瓜カレーのPR及びブラッシュアップを今後も継続して行い、「南風原町産スターフルーツ」、「はえばる美瓜」を活用した商品開発を行う参画事業者の確保を図る。
今後の取り組み方針		
・「ゆめかなえぼしマドレーヌ」「美瓜カレー」の販路を開拓するために、販売店や町商工会、観光協会等と連携し、パンフレットの作成・配布や、インターネット・SNS等の活用、またイベント等への参加を通して商品のPRに取組んでいく。 ・へちま(美瓜)の佃煮に関しても埋もれさせるのではなく、新たな商品の開発ができないか検討していく。 ・スターフルーツ、へちま(美瓜)を使用した商品を開発するために、プロジェクトチームでスターフルーツとへちま(美瓜)の商品素材としての研究や可能性の検討を進めていく。 ・スターフルーツ、へちま(美瓜)の加工方法について研究するため、先進地視察や、有識者を招いての研究会等を開催する。 ・開発商品のPRだけではなく、原料となるスターフルーツ、へちま(美瓜)のPRもあわせて行う。 ・ゆめかなえぼし(スターフルーツ)マドレーヌ、美瓜(へちま)カレーは売上が順調に伸びているので、今後も継続して販売を続け、販路拡大やPRを図っていく。 ・「南風原町産スターフルーツ」、「はえばる美瓜」の更なる活用を目指し、町内事業者への周知活動など、認知度UPに向けた取り組みを推進する。		

資金の流れ														
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3,971</td><td>3,971</td><td>3,176</td><td>795</td><td>0</td></tr> </tbody> </table> 南風原町 3,972千円 → 委託料 3,972千円 南風原町商工会 3,972千円 〔町独自の商品開発技術力強化事業に係わる委託業務〕					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	3,971	3,971	3,176	795	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
3,971	3,971	3,176	795	0										
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目		評価に関する説明										
	○	支出先の選定方法は妥当か。		○随意契約により委託した商工会は、商工業の総合的な改善発達を図るための組織として設立された、町内唯一の地域経済団体であり、地域経済に精通し、町の歴史背景や地域性、地域資源を充分理解している組織であり、本業務の遂行に必要な多くの中小企業者との広範なネットワークも有していることから、妥当であったと考えている。										
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。		○使途については、支出等に関する書類により確認し、適正であった。										
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												